

平成 30 年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 陽翠水	代表者	仲井培雄	法人・ 事業所 の特徴	ケアマネ、介護士、看護師の各専門職が連携し、通い・泊り・訪問のサービスを柔軟に組み合わせることで利用者の在宅生活を支えていくことを目指しています。また、通いでは個別活動に力を入れ、訪問では安否確認から身体介護まで提供することで、自分らしく生活できることを支援いたします。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 コミュニケア緑が丘	管理者	菅原理絵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	5人	0人	0人	0人	2人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員間でも運営推進会議のメンバーの方からも、事業所の事を知られていないと言う現状があるため、地域の行事に参加し管理者が出向く事で地域の方に知って頂き、問い合わせ数や登録者数の増加につなげる。	わかばの集いやわいわいカフェには参加していたが、地域の方に知っていただき問い合わせ数や登録者の増加にはつながっていないのが現状だった。	少ない人数でも工夫しながら頑張っているのだと感じた。	評価する際に少々わかりにくいという意見が多かったため、記載時の工夫は必要。運営推進会議の際にも詳細に説明していく。また、職員の日頃の取り組みも知ってもらうための説明、事例で分かりやすく小規模多機能としての取り組みも伝えていきたい。
B. 事業所のしつらえ・環境	今後も定期的に換気や清掃、整理整頓、環境整備を行い、不快な臭いが無い状態を維持していく	臭いに関してはこまめに対応していた。事務所内や利用者のスペースの環境整備にも配慮していた。	パッと見てわかるロゴなどが掲げてあるとよい。 こども 110 番の施設になっているがとても分かりにくい。 会議で 2 階に来るだけなので、全体の環境は分からなかった。 よくわからないというのが正直なところだった。	臭いや不快な音というよりも、施設内を知らないという意見が多かった。整理整頓はもちろんだが、まずは施設内を知っていただく工夫や取り組みが必要。行事などを開催し、内部を気楽に見ていただけるようにしていきたい。またこども 110 番も地域の方にわかりやすく掲示していくことも必要。
C. 事業所と地域のかかわり	月に 1 回程度は、利用者様や管理者及びスタッフが、わかばの集いやわいわいカフェ、各地域で行われている法話会や委員会に参加し、地域の方に事業所の事を知って頂く機会とする。また、わいわいカフェや運営推進会議で、地域での困りごとや相談ごとを収集し、事業所内、または出向くことで相談しやすい事業所を目指す	地域での困り事や相談事を収集できるほどの関りは持っていない。事業所内の業務に追われてしまう状況が続き、地域への行事等にはほとんど参加できなかった。	こども 110 番の施設であることをもう少し住民に知ってほしい。 コミュニケア緑が丘はどんな施設なのかを伝えてほしい。よくわからない。 ジーヒルズは福祉避難所となっているがコミュニケア緑が丘もそうになっているのか？ 限度額がオーバーするという理由で小規模多機能を紹介したい時がある。そのようなときは見学など対応してもらえるのか？ 認知症の家族を抱えた方が、交流できる場所があるととても嬉しい。認知症カフェの開催予定はありますか？	地域の方が誰でも相談しやすい場所を目指すというのは現状難しい。しかし地域の方の身近な存在となることは可能であり、緑が丘地区の行事等の参加を増やし、顔の見える関係を作っていきたい。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>月に1回程度は、利用者様や管理者及びスタッフが、わかばの集いやわいわいカフェ、各地域で行われている法話会に参加していく。また高齢者支援センターや民生委員との情報を収集、共有し、地域での困りごとや相談事に関わっていく。</p>	<p>地域ケア会議の開催や、地域の困り事を聞く機会はなかったが、利用者が地域へ出かける行事や利用者の地域での行事に参加する支援は実施することができた。</p>	<p>利用者以外の方の相談や困り事はコミュニケーションではなくあんしん相談センター等が担うものではないか。閉じ込めているという表現がよく理解できないが、外に出ようという様子は伝わった。</p>	<p>事業所としての地域(緑が丘)、利用者が住む地域、それぞれの地域での会議や行事に利用者に参加していく機会を設ける。その中で、地域の心配な方の相談があれば、適切な窓口を紹介していく。また企画を通して外出し地域へ出かける取組みを増やしていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>年に2回程度は施設や地域での困りごとや相談事を、事例検討会として行っていく</p>	<p>事例検討会を開催することはできなかった。どのように開催していくのかは検討していく必要がある。</p>	<p>コミュニケーションがプロの集まりだと思うので、認知症の方や高齢者に対する対応や意見を聞く機会が欲しい。地域での取組みを一緒に取り組もうとしていますかという質問の意味が分からないが、今後は地域のことを詳細に話し合いができるとよい。</p>	<p>小規模多機能の利用者の関りの事例報告会を開催する。 ・地域の方の困りごとを共有できる場(会議等)への参加。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>今後も地域の防災訓練に参加し、年2回行う避難訓練の内、1回は自然災害で可能性が高い地震想定の実施する。</p>	<p>地域の防災訓練には参加できた。コミュニケーションが緑が丘の避難訓練に地域の方の参加は難しかったが、様々な災害を想定したシュミレーションは今後必要ではないか。</p>	<p>コミュニケーションが緑が丘の避難場所はどこなのか？ コミュニケーションが緑が丘で火災が発生した時に、どのようにして地域の方に協力していただくかを事前に考えておきたい。 →まずは法人内での協力があるので、法人内の協力体制を確認したうえで地域住民との協力体制を確認してはどうか。</p>	<p>地域の防災訓練に参加する。事業所の避難訓練の詳細を地域住民に知ってもらう。 地震想定の実施する。</p>